

大／阪／の／建／築／まちあるき——「堺」

くさべじんじゃ
日部神社



拝殿正面



参道全景



拝殿全景



拝殿の葺股詳細

所在地： 堺市西区草部 262
最寄駅： JR 阪和線 鳳 南 1.5km

建築概要

▶ 構造

重要文化財 日部神社本殿
桁行三間 梁間正面三間 背面二間 一重
正面切妻造 向拝三間 本瓦葺

▶ 堺市指定有形文化財

大正 6 年 4 月 5 日

日部神社(くさべじんじゃ)は、大阪府堺市西区草部(くさべ)にある神社である。式内社で、旧社格は村社。彦坐王・神武天皇・道臣命を主祭神とする。彦坐命は日下部首氏の祖神である。日下部首氏はこの一帯を拠点としていた豪族で、一族には浦島太郎もいたと伝わる。

当社は明治時代に鶴田村字輪之内にあった日部神社、同字寺山の八坂神社、原田の熊野神社、上村の菅原神社を合祀したもので、社名と主祭神は式内社である旧日部神社のものを採用している。他に旧八坂神社の素盞鳴尊、旧熊野神社の伊弉冉尊、旧菅原神社の菅原道真を合せ祀る。日部神社の創建の由緒は不詳であるが、神武天皇が東征の際に上陸し、長髓彦と最初の戦いをした「日下の蓼津」はこの一帯であると『古事記伝』に記されている。

明治44年に八坂神社・熊野神社・菅原神社が日部神社に合祀され、旧八坂神社の社地に遷座した。社地および本殿・神門は旧八坂神社のものである。本殿前の石燈籠に製作日の記録として「正平二十四年卯月八日」と彫られていることから、本殿は南北朝時代から室町時代にかけての建造とみられ、本殿・石灯籠は大正6年(1917年)重要文化財に指定された。柱の間を飾る蛙(かえる)の足のような形をした葺股(かえるまた)という部材には、祭神である牛頭天王(ごずてんのう)にちなんだ牛、唐獅子(からじし)、碁を打つ二人の人物、鳩と松、鴛鴦(おしどり)など、さまざまな彫物がある。拝殿は旧菅原神社のもを移築したものである。日部神社の旧社地は現在地から南へ300mの道臣命が埋葬されていると伝えられる御山古墳側にある。遷座後の旧社地は大正初年に民間に買却され、現在は住宅地となっている。

(七堂元敏)